

柏崎市議会柏崎市新庁舎建設特別委員会 概要報告

日 時 平成27年9月24日（木）午後1時00分～午後2時10分

出席委員 15人

加藤委員長、相澤副委員長、佐藤（正）委員、持田委員、柄沢委員、春川委員、矢部委員、若井（恵）委員、三井田委員、飯塚委員、与口委員、笠原委員、村田委員、齋木議長、真貝副議長

委員外議員 7人

重野議員、五位野議員、阿部議員、三宮議員、布施議員、佐藤（和）議員、荒城議員

【報告事項】

柏崎市新庁舎建設検討委員会検討内容等の中間報告

《概要》

柏崎市新庁舎建設検討委員会のこれまでの検討内容について、資料をもとに報告。

《質疑》

春川委員：市民アンケートに物産館を希望する意見もあったようだが、現在は産業文化会館の中に簡易的な特産品の掲示しかない。物産品を一堂に集めたような場所が欲しいがどうか。

総合企画部長：物産館等の意見があることは承知しているが、庁舎における物産機能は今のところは考えてはいない。周辺のまちづくりを検討する中で、運営等総合的に考え、物産館の必要性について検討したい。

持田委員：新庁舎は、50年先まで柏崎のシンボルとなるものであって欲しいと考える。現在、新庁舎建設予定地周辺は高齢者が多く、人口も多くはないが、防災機能の充実という観点でも、若者が定住するようなしかけを検討する必要があるのではないかと。また、海の柏崎だけではなく、緑の柏崎も一方で柏崎の特徴でもあると考えるので、緑の空間があってしかるべきではないかと。また、建設予定地には高さ制限があるようであるが、どれくらいの階層が想定されるか教えて欲しい。

新庁舎整備室長：高さ制限については、35mであり、アルフォーレよりも若干高く建設可能である。階高については、現在はまだ決定していない。緑の柏崎というご提案であるが、外構に植栽等を検討しているところである。周辺地域に若者が定住するようなしかけをとということについては、新庁舎の機能というよりは、周辺地域におけるまちづくりの方向性を検討する中で考えていきたい。

三井田委員：災害対応の記載があるが、浸水に関しては、もう少し厳しく考えて欲しい。また、液状化の影響についての対策とは、どのような対策をするのか。また、湛水の対策を考慮するとあるが、工事の手法は決まっていると思うが、具体的には何を意図しているのか。

新庁舎整備室長：液状化に対する対策は、現時点では、確定はしていないが、支持層まで届くように地中杭を打つ手法が一般的である。また、湛水については、柳橋雨水ポンプ場の稼働以来、日石町において浸水・湛水は起こってはいないが、危機管理の観点から、十分に検討していきたいと考えている。

三井田委員：常総市は、鬼怒川に堤防を造ったから大丈夫であるとしていたが、結果、今回の豪雨災害では、堤防が決壊し、被害が発生している。もう少し丁寧な災害対策の議論をして欲しい。次回の検討委員会では、現実には発生した常総市の事例について話題に挙げる予定か。

新庁舎整備室長：常総市は、水害ハザードマップに記載があるところに庁舎を建設した。当市の建設予定地である日石町は、津波・水害ともにハザードマップでは恐れがない場所となっている点で異なっている。そうはいつても、災害も想定した上で十分な検討をしていきたいと考えている。

真貝副議長：新庁舎の建設予定地は、当市の洪水ハザードマップでは、24時間雨量が200mm以上の場合に、浸水が1.0～2.0m程度想定されている。昨今の災害では、時間雨量が100～200mmで発生しており、鶉川の改修工事と柳橋の雨水ポンプ場を改修したので、弊害はないと言っているが、信憑性は薄いのではないかと考えるが。日降雨量ではなく、時間あたりの降雨量を想定し、具体的数字を算出した上で、検討委員会で検討して欲しい。また、雨水の再利用については、当市では、一般家庭における雨水の活用は認められていないにもかかわらず、庁舎だけ活用を認めるということであるならば、明確な理由・整合性がなければできない。

総合企画部長：前段の浸水については、まず心配ないと考えているが、市民の皆様は浸水に対する懸念があるとするならば、説明を尽くしていきたいと考えている。

新庁舎整備室長：雨水の再利用については、環境に配慮した庁舎を目指す意図で、グリーン庁舎イメージ図を掲載しているが、各自治体によりケースバイケースであるため、他への影響も含め、慎重に検討を進めていきたいと考えている。

真貝副議長：ポンプの能力と河川の断面図を見れば、時間雨量でどのくらいまでは大丈夫ということが計算できるはずなので、数字を出して欲しい。

持田委員：新庁舎における行政運営に関わる機能の断面的空間イメージの掲載があるが、市民生活を勘案すると、ガス・水道、元気支援課の機能も必要となるのではないか。分散している機能のうち、新庁舎には、どの行政機能が集約されるのか。

新庁舎整備室長：本庁地域（本館・教育分館・第二分館）の行政機能の集約を考えている。

持田委員：元気支援課や博物館等は、現状のままであると理解してよいか。

総合企画部長：これから検討する中で、集約する範囲を明確にしていきたいと考えている。集約するのは、本庁地域の施設をベースに考えていくが、ガス水道局などまでも集約するかについては今後検討していきたいと考えている。

三井田委員：防災・危機管理機能について、アルフォーレが避難場所として指定されているが、災害対策本部等の防災機能と避難場所が一か所に複合的な機能としてあると、災害時には混乱し、通常業務に支障が出る可能性が高いため、危機管理の観点から分散している方がよいと考えられるが、当市の新庁舎は、避難場所と防災機能が隣接しており、そういったデメリットも踏まえて、防災・危機管理機能について検討委員会で検討して欲しい。

総合企画部長：一か所に避難者・物資の搬出入、本部機能が集約されているのは問題あると考える。新庁舎は避難場所としては考えていないが、防災担当と相談し、どのような対策をとるべきであるか検討していきたい。

柄沢委員：新庁舎の規模について、職員数530人で想定しているが、50年間使用することを考えると、人口減少も想定しなければならないと考えるが、人口減少も見据えた市の職員数で検討しているのか。

総合企画部長：50年もの長期のスパンでの検討はしていないが、庁舎を整備する5年後の時点で、在職している職員が全員庁舎に入らなければならないため、5年後の職員数で想定している。人口減少に伴い、市の職員数も減少すると考えられることから、職員数が減少しても柔軟に対応できる庁舎にしたいと考えている。

真貝副議長：駐車場について、現状の1日の来庁者数と駐車場利用者数はどのようになっている

か。他市のデータをみると、証明関係で来庁する市民が7割を占めているようである。マイナンバーが導入され、コンビニ収納が可能となれば、さらに来庁者の減少が想定される。マイナンバーの導入により、5年後には劇的な変化が見込まれ、市役所へ来庁する必要が大幅に減少することが想定されるが、職員数、あるいは市役所自体の機能、駐車場についてどのような考え方で整備するのか。

新庁舎整備室長：マイナンバーの導入により、ICTの活用が積極的にされていくことは想定している。また駐車場は、現庁舎を基準として考え、来庁者の実態について検討していきたい。

真貝副議長：来庁目的ごとの来庁者数のデータは持っていないのか。

新庁舎整備室長：来庁者数のデータは持っていない。事務報告に掲載されている目的については、処理件数から確認できる。また、市民課で独自アンケートを実施しており、その集計結果からも市民課の来庁者数については、把握できる。なお、そのアンケートによると7割弱が証明関係で来庁している。

柄沢委員：5年後の竣工を目指すという事で、設計期間が短いように感じる。オリンピック関連の建設が始まれば、コスト、材料、人材面で影響もあるのではないか。

新庁舎整備室長：当初想定していたよりは、オリンピックの影響は少ないと考えている。工事期間については、14,000㎡程度あれば十分であると確認した。

相澤副委員長：基本方針で表現されている配慮すべき事項とは、完成した庁舎において配慮されるものだが、地元業者を積極的に活用するというような話が、検討委員会に出てきたか。

総合企画部長：検討委員会の中ではそうした話は出てないが、市の他の施設と同様の考え方が基本になるものと考えている。

春川委員：議会棟は、本体に含めるのか。別棟になるのか。

新庁舎整備室長：設計前の段階であることから、決まっていない。また、検討委員会でも検討していない。議会として意見をいただきたい。

三井田委員：市役所本体だけ杭を打つてもしょうがない。液状化対策として有効的に活用させるのであれば、本体だけでは意味がなく、市役所までのアクセス道路についても杭を打つ検討をして欲しい。

新庁舎整備室長：駐車場や周辺のアクセス道路も含めて今後検討したい。

与口委員：市役所本来の機能として必要な機能と交流機能のような市民が欲しいと考える付加機能とをどのように区別して検討しているか、また今後どのように検討していくのか、両者の機能を検討する方向性について教えて欲しい。

新庁舎整備室長：新庁舎における交流機能として考えているのは、既存施設が目的を持った施設であるのに対し、新庁舎では、目的がなくても気軽に利用できるような交流機能を検討したい。いずれにせよ、既存施設との競合は避けたいと考えている。

若井(恵)委員：市役所の本来の機能は、行政機能である。市民が交流機能を求めるのであれば、隣接するアルフォーレ等周辺施設に行くのではないか。華美な交流スペースをつくる必要はないのではないかと考えるが。その件について、検討委員会で検討してもらえないか。

総合企画部長：新庁舎は、基本的には、簡素で機能的な庁舎にしたいと考えている。したがって、まず、市役所としての本来の機能を整備し、その上で、周辺施設と競合しないような市民交流機能について、他自治体の事例も見ながらどうあるべきか検討したい。

真貝副議長：本質的な話として、機能等は、市役所の設計時に関連する話である。そもそも新庁舎を建設するのは、中心市街地活性化のためであるため、検討委員会では、駅前に市役所を持っていく事で、中心市街地活性化に資する為にはどうしたらよいかという、まちづく

りの観点でも検討して欲しい。

三井田委員：えんま通りのにぎわい創出・拡幅の計画は現在進行中であるが、市役所が現在の位置にあることを前提にスタートをしている。しかしながら、前提としている市役所がなくなってしまうので、どういう動線を持ってくれば、活性化になるのかという事を考える必要性があり、きちんと検討委員にもどういう経緯であったか説明する必要があると思う。

総合企画部長：中心市街地のあり方や方向性を検討する中で、新庁舎の検討と併せて、どのように中心市街地の活性化を図るか、方向性を出していきたいと考えている。